

2011

8

August
vol.158

古謝美佐子



城南海

FOCUS

8.21 日 こじやみさこ きざきみなみ 古謝美佐子 & 城南海 ~琉球、奄美からの風~

南島の「歌」の伝統に導かれた、天賦の才をもつ2人の歌手

text: 中村 晃

沖縄や奄美では、昔も今も、「歌」は日々の生活に欠かせないものとしてあります。四季折々の祭祀芸能をはじめ、誕生、結婚、還暦や古稀の祝いなどあらゆる機会に、「歌」が添えられます。かつては、日本本土でも同じように、先人たちから受け継がれてきた「歌」が生活のなかにあった筈です。ある種の喪失感と羨望が、沖縄や奄美の芸能に接したときに湧き起こってきます。私たちにとっての、有り得たはずの「歌」の有り様を見つめ直してみたい。——そのような想いとともに、琉球・奄美の「歌」をお届けします。

奄美の伝統が育んだ若き才能・城南海

コンサートの第1部は、奄美大島出身の若き歌手・城南海によるステージです。その澄んで伸びやかな歌声には、純真な人柄が滲み出たような温かさが宿っています。しかも、その歌唱表現は天賦の才によるものと言え、可憐で純朴な外見とは裏腹に、時に陽光降り注ぐ雄大な自然の様相を、時に月明かりに浮かび上がる秘められた人間心理の深層を、私たちに開示してくれます。

さて、城南海のソロステージで披露されるプログラムですが、「シマ唄」と呼ばれる伝統的な奄美民謡と城南海のオリジナル曲から構成されます。今回、奄美民謡の最初に取り上げられるのが「朝花節」です。奄美には、浜や家に何人かの仲間が集まり「シマ唄」を歌って楽しむ「唄遊び(うたあし

び)」という風習があり、その最初に場を清め、声慣らしのために歌われるのが、この(朝花節)です。(行きゆんにや加那節)は、奄美の代表的な「シマ唄」で、多くの奄美出身の歌手が取り上げています。「行きゆんにや加那」は「行ってしまおうのですか、愛しい人」という意味で、男女の別れを歌ったという説と大切な人との死に別れを歌ったという説がある、しっとりとした歌です。(国直よね姉節)は、皆で声を合わせて歌う賑やかな曲です。「国直集落のよねさんは、美人だー!」と連呼します。

そして、城南海の魅力が凝縮したオリジナル曲のステージは、五十嵐勝人(ギター)、舩岡圭司(パーカッション)、佐藤ひろのすけ(ピアノ)などの器楽陣とともにお贈りします。デビュー曲の〈アイツムギ〉、NHK『みんなのうた』で紹介された〈あさな ゆうな〉、そして今年9月にリリースされるシングル曲〈兆し〉などが取り上げられます。

世界中の賞賛を集める沖縄民謡歌手・

古謝美佐子

コンサートの第2部は、今日を代表する沖縄民謡歌手・古謝美佐子のステージです。歌とともに歩んできたこれまでの道のりを経て、今日の古謝美佐子の歌声は、慈悲深い、母なる大地のような包容力と優しさに溢れています。その一方で、聴く者を高揚へと導くエネルギーで情熱的な歌唱も彼女の大きな魅力です。作家の五木寛之が

「いま最も凄い歌手」と絶賛する、魂の歌い手です。1980年代には、坂本龍一が古謝美佐子の歌声に惹かれ、ユニットを結成、ワールド・ツアー実施。それ以来、古謝美佐子の活動は、日本国内のみならず、ヨーロッパやアメリカなど国際的なフィールドへと広がっていきました。

古謝美佐子のソロステージでは、沖縄民謡と現代の歌が取り上げられます。共演は佐原一哉(ピアノ)と知花さゆり(琉球舞踊)です。沖縄民謡としては、「また逢いましよう、美しき人よ」という歌詞を持つ、誰もがご存じの〈安里屋ユンタ〉が紹介されます。さらに、古謡が座敷歌へと移された、官能的な情趣をもつ粋な〈海ぬチンポーラ〉(「海の巻貝」)なども登場します。

古謝美佐子は、沖縄民謡を自身の活動の中核とする一方で、より広い視野に立って歌の世界を追い求めています。今回は、そのようなレパートリーの中から、いくつかの作品が取り上げられます。まずは、〈ポメロイの山々〉。オリジナルはアイルランド民謡で、古謝は歌詞を沖縄語に訳して歌います。アイルランドの国民的なバンド「チーフタンズ」の日本公演に古謝がゲスト出演した際に、初演された曲です。また、世界中の歌手がカバーしている〈アメイジング・グレイス〉。その沖縄語ヴァージョンが披露されます。さらに、佐原一哉が反戦の想いを込めて、作詞・作曲した〈黒い雨〉。古謝美佐子が初めて「自分から歌いたい」と思った標準語の歌です。

そして、今回のコンサートの最後を飾る第3部は、古謝美佐子と城南海の共演のステージです。古謝美佐子が、孫の誕生を機に自ら作曲した子守唄〈童神〉が取り上げられます。この歌は、NHKのテレビドラ

マ『ちゅらさん』の挿入歌として大きな注目を集め、新しい沖縄を代表する子守歌としてブームを呼び、城南海をはじめ、夏川りみ、山本潤子、花*花、加藤登紀子など多くの歌手によってカバーされています。また、

喜納昌吉の名曲〈花〉なども、取り上げられます。

今年の夏は水戸芸術館に、琉球、奄美からの爽やかな風が吹き渡ります。どうぞコンサートホールにお越しください!!

インタビュー 古謝美佐子

—これまでに水戸にお越しになったことはありますか？

古謝美佐子 (以下 KM) : あります。実は沖縄から本土に初めて仕事で来たのも水戸なんです。確か10代だったと思います。地元のお祭りにゲストで呼ばれたことを今でも覚えています。その後はここ15年くらいの間に何度か一般公演で伺っていますし、個人的に水戸の宝蔵寺さんというお寺ともずっと交流があり、何度かお参りに行き、また、このお寺で歌った事もあります。何か、水戸とはご縁がありますね。

—そのご訪問された時の、水戸の印象をお教えてください。

KM : 江戸時代からの歴史ある素晴らしい文化と、緑や田畑、河川などの自然が融合していて心が和みます。また市民の皆さんも親切で、奥深い豊かさを感じ、とても好きな町です。

—沖縄では、昔から今日まで、「歌」が脈々と受け継がれてきているように思います。沖縄の方たちにとっての「歌」とはどのような存在ですか？

KM : 沖縄民謡は昔から生活と共にあります。お祭りや行事やお祝いから、ちょっと

した知人の集まりまで、すぐ唄三線が始まります。そんな島のうたを、ここ最近本土の方々が熱心に聞いていただくようになり、とても嬉しく、また有り難く思っています。

—古謝さんは、その琉球の民謡歌手として活躍されていると同時に、そのエッセンスを発展させたオリジナル曲も作っていらっしゃいます。そんな古謝さんにとっての「歌」とはどのような存在ですか？

KM : オリジナルと言っても私が時々ふと詠む琉歌を佐原が曲にすることが殆どです。どのようにエッセンスを発展させたとかはよくわかりません。「歌とはどのような存在か」ということもあまり考えた事がありません。多分「空気」のように、生まれた時から自分の周りに常に自然にあるものだからでしょう。

—今回の水戸公演について、どのようなステージをお考えなのか、少しお教えてください。

KM : 娘のように若い城さんとのジョイントコンサートは実は初めてなので、とても楽しみにしていますし、私のソロのステージは、震災後のまだまだ大変な時期ですから、人の命や平和を深く感じて頂ける内容に出

来たらと思っています。また、ゲストの沖縄を代表する若手舞踊家・知花さゆりさんとの普段見られない歌と踊りのコラボレーションも、是非お楽しみ下さい。伝統的な民謡から〈アメイジング・グレイス〉のような外国曲まで、いろいろ共演する予定です。

—最後に、水戸の聴衆に向けて、メッセージをお願いします。

KM : 3月の大地震で、水戸も多大な被害を受けられた方々や施設が沢山ありでしょうが、そんな中で、わざわざコンサートを開いて頂けるのは、この上ない喜びです。こんな時だからこそ水戸の人に遠い海を隔てた沖縄の歌を精一杯届けお聞き頂き、少しでも元気を持ってお帰り頂けたら幸いです。

古謝美佐子 & 城南海 ～琉球、奄美からの風～ 8/21 (日) 14:00 開演 (13:30 開場)

会場 水戸芸術館 コンサートホール ATM
全席指定 ¥3,500

出演 城南海 (うた、奄美三味線)
五十嵐勝人 (ギター)
舩岡圭司 (パーカッション)
佐藤ひろのすけ (ピアノ)
古川淑恵 (チェロ)

古謝美佐子 (うた、三線)
佐原一哉 (キーボード、ギター)
知花さゆり (琉球舞踊)

水戸の夏やすみ

音楽ワークショップも参加者募集!

特集「CAFE in Mito 2011- かかわりの色いろ」

海で真っ黒に日焼けするのもいいけど、アートで楽しむ水戸の夏も負けちゃいけない。7月30日(土)から開催される「CAFE in Mito 2011- かかわりの色いろ」は、当館現代美術ギャラリーを中心に、街中のあちこちで、アーティストの作品展示、パフォーマンスやコンサート、映画やワークショップなどもりだくさんの内容で行う、まさに水戸芸術館ならではの企画です。ここではその中から、音楽とアートのコラボレーション企画「音楽×こども×アート」プロジェクトをご紹介します。

8月28日(日)に、ピアニスト・中川賢一が小学生を対象に、音楽をきいて自由に絵を描くワークショップを行います。テーマ曲はストラヴィンスキーの「春の祭典」。そこで描かれた絵は、宇井孝司(演出家、脚本家)の「魔法」によって、10月1日(土)のコンサートでピアノの演奏と「共演」という、エキサイティングなプロジェクトです。

その他、8月20日(土)、21日(日)には、子どもやその家族を対象にした「こども・こらぼ・らぼ 2011」、8月27日(土)には日比野克彦による市民参加イベント「HIBINO CUP」、また7月末からは、水戸市内各所で多彩な演劇作品を上演する「プレイ×プレイ プロジェクト」が行われます。さらに期間中はギャラリーでコンサートを行ったり、ダンサーが出没(!)するなど、楽しい仕掛けが満載!この夏は水戸で、「新たなアートの楽しみ方」を見つけませんか?

詳しくは水戸芸術館公式ホームページ (<http://arttowermito.or.jp/>) をチェック!

text: 高巢真樹



ピアノ: 中川賢一

大震災から早幾月 防災の日を前にして

避難訓練コンサート

text: 篠田 大基



8月27日。防災の日を間近に控えた土曜日に、水戸芸術館では一風変わったコンサートを開催します。タイトルは「避難訓練コンサート」。その名のとおり、このコンサートでは、演奏の最中に地震が起こったという想定で、コンサートの途中から避難訓練が始まります。お客様も演奏家も、そして芸術館のスタッフも、皆一緒に、この訓練に参加していただきます。3月11日の大地震を教訓にして行う、この「避難訓練コンサート」。もちろん演奏も楽しめる上に、避難訓練あり、さらにはコンサート中に、災害を人間心理から考えるユニークな講演会までであるという、盛り沢山の内容となっています。入場は無料！ あなたも参加してみませんか？

大震災の経験を文化に

東日本大震災から4カ月。水戸の街も着実に復旧し、芸術館も7月から事業を再開する運びとなりました。その一方で地震は、小さくなってきたとはいえ、今なお続いています。「もしコンサート中に地震が来たら？」音楽を聴きながら、そんなことを考えたことはありませんか？

公共の文化施設では、消防法によって、防災計画の作成と避難訓練の実施が義務付けられています。水戸芸術館もスタッフによる避難訓練を定期的に行ってきました。今回の「避難訓練コンサート」は、

いわばその拡張型。実際にお客様や演奏家にも参加していただく避難訓練は、全国的にも数少ない取り組みです。未曾有の震災を経た今だからこそ、被災地・水戸だからこそ、その経験を活かした「防災文化」を培うために、避難訓練コンサートをやる——そんな思いから、このコンサートは企画されました。

災害を人間心理から考える講演

今回の目玉の一つが講演会。講演を快くお引き受けくださったのは、テレビにもたびたびご出演されている東京女子大学名誉教授・広瀬弘忠先生。災害心理学がご専門の広瀬先生は、阪神淡路大震災や新潟県中越沖地震など、多くの災害の現場で継続的なフィールドワークを展開していらっやいます。

講演のタイトルは、「震災時の心理と震災後の行動」。3月11日の大震災について、しばしば「想定外」という言葉が使われますが、あらゆる災害は常に新しい側面を持つ、と広瀬先生は指摘されています。変幻する災害に、また災害後の社会の変化に、私たちはどう対応すべきか？そして今後の復興の道筋とは？多くの災害の分析を踏まえた知見に興味は尽きません。

水戸の復興の息吹！ 管楽器の饗宴

今回の「避難訓練コンサート」。盛り沢

山の内容とはいっても、主役はやはり音楽です。演奏して下さるのは、大震災以後、ともに復興への道を歩む茨城の音楽家たち。企画の趣旨に賛同していただき、「ぜひやりましょう」と言ってくださいました。今回のコンサートでは、木管アンサンブルと金管アンサンブルが互いの腕を見せ合います。水戸復興の息吹を感じさせる管楽器の饗宴にご期待ください。

木管アンサンブルは、「茨城の名手・名歌手たち」でも素晴らしい演奏を披露してくださった萩原健さん（クラリネット）や河崎智恵さん（オーボエ）、吉川寿美江さん（ファゴット）など、これまで水戸芸術館のステージにたびたび出演されているメンバーを中心とする五重奏。ピアノの井川順さんも加わって演奏されるブーランクの〈六重奏曲〉は、軽妙洒脱。活気溢れる楽しいひと時をどうぞ。金管アンサンブルには、やはり「茨城の名手・名歌手たち」出身の森田泰明さん（トロンボーン）が、ご自身の主宰する学生演奏家集団「M響ブラックマイスター」とともに登場。学生とはいっても、数多のコンクールで華々しい成績を収める将来有望な若者揃い。未来への希望を音楽に込めてお届けします。

音楽を楽しみ、講演に学び、そして体験する「避難訓練コンサート」。ご興味をお持ちの方はぜひ、8月27日、水戸芸術館へ！



講師
広瀬弘忠

※コンサート当日 9:30 より、水戸芸術館エントランスホール・チケットカウンターにて入場整理券を配布いたします。

避難訓練コンサート

8/27 (土) 16:30 開演 (16:00 開場)

会場 水戸芸術館 コンサートホール ATM
全席自由 入場無料
出演 広瀬弘忠 (講演) 萩原 健 (クラリネット)
森田 泰明 (トロンボーン) ほか
講演 『震災時の心理と震災後の行動』
曲目 デュカス：〈ラ・ペリ〉のファンファーレ
ブーランク：六重奏曲 より ほか

INFORMATION

チケットに関するお問い合わせ

水戸芸術館チケット予約センター :029-231-8000

営業時間: 9:30 ~ 18:00 (月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

水戸芸術館音楽部門 :029-227-8118

ホームページ <http://arttowermito.or.jp/>

公式ブログ <http://concerthallatm.blog101.fc2.com/>

ATM 便り 毎月1回茨城新聞に不定期登場

twitter @ConcertHall_ATM

《第九》コーラス参加者募集!

水戸芸術館では、年末に開催する「水戸の街に響け! 300人の《第九》」のコーラス参加者を募集いたします。詳しくは、応募要項をご覧ください。

[公演日]: 2011年12月11日(日)

[演奏曲目]: ベートーヴェン〈交響曲第9番〉第4楽章

[応募資格]: 10月~12月に水戸芸術館で行う練習に参加できる方(経験不問)

[参加料]: ¥2,000

[申込締切]: 8月31日(水)

応募要項の請求方法

① 水戸芸術館窓口にて直接入手

② 水戸芸術館ホームページからダウンロード

③ 80円切手を貼付し返信先を記入した定形封筒を同封の上、下記宛先に郵送
お問い合わせ

水戸芸術館音楽部門《第九》係(担当: 関根・篠田・大金)

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL: 029-227-8118 FAX: 029-227-8130

『CAFE in Mito 2011』関連企画

「音楽×子ども×アート」プロジェクト ワークショップ参加者募集!

[実施日] 8/28(日) 10:00~13:00~/15:30~(各回90分)

[会場] 現代美術ギャラリー内ワークショップ室

[参加費] ¥500(当日受付にてお支払いください。)

*見学ご希望の保護者の方は、観覧会入場券が必要です。

[対象] 小学生

[定員] 各回につき25名(先着順 ※お申込み開始: 7月21日(木))

[お申し込み] 水戸芸術館音楽部門まで。

参加者名、住所、電話番号、メールアドレス、年齢、参加希望時間を記載の上、FAX(029-227-8130)またはEメール(concerthall.atm@gmail.com)でお申込みください。

[お問い合わせ] 水戸芸術館音楽部門(担当: 高巢) Tel. 029-227-8118

エマニュエル・バユ フルート・リサイタル「華麗なるオペラ・ファンタジー」 公演中止のお知らせ

9月23日(金)に予定しておりましたエマニュエル・バユ フルート・リサイタル「華麗なるオペラ・ファンタジー」は、このたびの震災による原発事故の影響を憂慮した出演者の都合により、中止とさせていただきます。公演を楽しみにされていたお客様には大変申し訳ございませんが、何卒ご了承いただきますようお願い申し上げます。

なお、今回のエマニュエル・バユ日本ツアーの詳細につきましては、招聘元(株)アスペンにお問い合わせください(Tel. 03-5467-0081)。

編集後記

通勤で毎日往復1時間以上歩いています。その日の気分にあった音楽を聴きながら、楽しい時間を過ごしていたのですが、最近では、朝から照りつける夏の陽射しにめげそうになっています。負けるな、自分!(り)

このところ、天気がよくて非常に困ります。すべて投げ出して海にいきたい! 連日、欲求不満との戦いです。徒歩圏内に海があったら。。。と願ってはみるものの、あったらおそらく、もう仕事場には来れない。(g)

4月の終わりに自転車を買った。買った時は、これで行動範囲が広がるかと、買い物に楽になるとか、考えていたけれども、最近、自転車のもう一つの利点を見つけた。暑い日には自転車! 風を切るのは気持ちいい!(篠)

野口雨情が詩を書いた童謡(七つの子)。MCO「子どものための音楽会」の最後に皆で斉唱する。物心ついた頃からの疑問は、「七つ」の意味するところ。七羽? それとも七歳? 詩人の心をのぞいてみたい。(て)

東洋のガラパゴス・小笠原諸島が世界遺産に登録と聞き、「これからの季節、やっぱり海と大自然だよ」と、気分だけは一足早く夏休み。旅に花火に...と、あれこれ夢はふくらみます。だって夏はまだ始まったばかり!(樹)

岡本太郎の名著『沖繩文化論』を読み返した。天災、疫病、人頭税、基地問題...。苦難を乗り越えるために、人は、歌い、踊り、神に祈りを捧げてきた。かの地の「歌」が胸を打つのは、そうした歴史をぐり抜けてきたからだろう。(中)

チケット・インフォメーション

《7月23日(土)発売分》

■古謝美佐子&城南海 ~ 琉球、奄美からの風 ~
8/21(日) 14:00開演 料金 [全席指定] ¥3,500

■ちょっとお昼にクラシック

— 二人のミュージーズによるすてきな音楽の語り—

9/22(木) 13:30開演 料金 [全席指定] ¥1,200 (1ドリンク付き)

■みる☆ハルサイ 2台ピアノでストラヴィンスキー

10/1(土) 14:00開演

料金 [全席指定] 一般 ¥1,200 (※ギャラリー入場券提示の方は ¥1,000)

小学生 ¥800 (未就学児はご入場不可)

■ちょっとお昼にクラシック — 鈴木大介 ソロでデュオでギター三昧—

10/22(土) 13:30開演 料金 [全席指定] ¥1,200 (1ドリンク付き)

水戸芸術館の主な8月のスケジュール

コンサートホール ATM

■古謝美佐子&城南海 ~ 琉球、奄美からの風 ~

8/21(日) 14:00開演 料金 [全席指定] ¥3,500

■避難訓練コンサート

8/27(土) 16:30開演 入場無料 [全席自由]

現代美術センター

■水戸芸術館復興記念『CAFE in Mito 2011 一かかわりの色いろ』

7/30(土) ~ 10/16(日) 9:30 ~ 18:00 ※入場は17:30まで

[休館日] 月曜日

※2011年9/19、10/10(月・祝)は開館、翌9/20、10/11(火)休館

[入場料] 一般 ¥800、団体(20名以上) ¥600

中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料

「アート ウェンズデー」本展開期中は毎週水曜日 入場無料

一年有効フリーパス→ハイティーンパス「H.T.P.」¥1,000/対象:15歳

以上20歳未満 「おとなのパス」¥2,500/対象:20歳以上

[出品作家] 青木陵子、青山悟、秋山さやか、伊藤存、上田薫、O JUN、笠

原出、クリスト&ジャンヌ・クロード、川島秀明、小林孝巨、酒井咲帆、ジュ

リアン・オピー、杉戸洋、杉山知子、鈴木康広、曾谷朝絵、ほか

■夏休みのアート体験! 「子ども・こらぼ・らぼ 2011」

8/20(土)、8/21(日) 各日 10:00 ~ 17:00 (予定)

[参加費] 1日券=小中学生 ¥500 / 高校生以上 ¥1,000

2日券=小中学生 ¥800 / 高校生以上 ¥1,200

※参加費にはギャラリーの入場料、材料費等も含まれます。

水戸芸術館周辺

■ACM劇場プロデュース

『プレイ×プレイ プロジェクト —水戸を元気に、街を劇場に—』

7/29(金) ~ 9/10(土)

※詳細は水戸芸術館演劇部門(029-227-8123)までお問い合わせください。

[参加団体] 劇団ACM、演劇事務所'99、パフォーマンス集団キ

ミトジャグジー、プロフェッショナルファウル、heart dream

shoppers、劇団タイコパン、劇団OH-NENS ほか

茨城の主な8月の演奏会

■ノバホール TEL / 029(852)5881

・L'ail Kreis ライル・クライス 8/7(日) 14:00開演

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴオ]

2011年8月発行 第158号

編集発行 / 水戸芸術館音楽部門

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

tel:029-227-8118 fax:029-227-8130

ankmr@arttowermito.or.jp

http://arttowermito.or.jp/

編集 / 水戸芸術館音楽部門(五十音順) : 石井亮子

大金絢子 篠田大基 関根哲也 高巢真樹 中村晃

デザイン / 大金絢子

印刷所: 株式会社あけぼの印刷社

次号は・・・初夏には叶わなかった、あの2人の輝く

音楽の語りなが、時を移して実現します。